



世田谷区立知的障害者就労支援センター すきっぷ

Setagaya-ku Tokyo 1997

< 街並をつくる障害者施設 >

< 収容型から通過型施設へ >

敷地：東京都世田谷区船橋 5 - 33 - 1

発注：東京都世田谷区

構想、設計：1993.12～1996.3

工 期：1996.6～1997.10

敷地面積：979.31㎡

建築面積：631.39㎡

延床面積：1382.63㎡

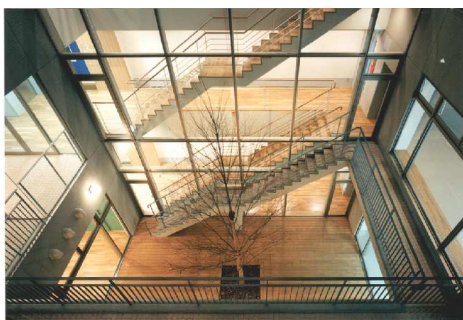
日経7-行か17：1998年2-23号掲載

建築設計資料：第94号 掲載予定

世田谷区では、一般企業への就労が遅れている知的障害者の職能訓練施設及び、就労促進のためのセンター的施設として、「すきっぷ」を計画した。この施設は精神薄弱者福祉法に言う「通所型の授産施設」であるが、従来の施設が長期にわたり「収容」し、福祉的配慮のもとで働く場を与えるという性格をもつものに対し、一般企業へ人材を送り出すことを目的とした「通過型」施設である。

この新しい考え方にに基づき、施設内には一般企業と同様の作業環境をもつ「工場」(作業室)を設け、訓練生が自発的に働く習慣を身につけるためのトレーニングを行う。また企業の情報を集めたり、施設側から情報を発信していくことにも積極的に取り組んでいく。

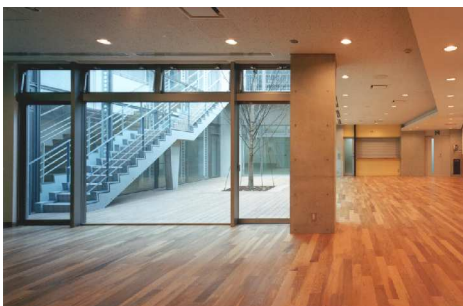
私たちは93年のプロポーザルコンペで指名されて以来、障害者施設課、営繕課とともに、訓練内容等も含めた議論に加わり、構想、設計、監理を進めてきたものである。



中庭

< 中庭型の空間構成 >

建物の中央部に中庭(B1レベル)をとり、主要室をそれに面して設けた。制御された環境空間である中庭に面して、食堂、作業室等は、大きく開かれている。また、中庭は、街とは適度に隔てられた屋外生活スペースであり、食事や運動の場所ともなる。同時に、緊急時における一時避難場所でもあり、高い安全性をこの建物に保障している。



地下一階食堂ホール

< 回遊型の空間構成 >

この建物は小さな個性的な空間の集合としてつくられているが、それを連結するのが、ギャラリー、ブリッジ、廊下等の共用空間である。

建物利用者は、選択性の高い経路を持つことができる。また地域の人々をまきこんだイベント時には、この内外を一体化する回遊空間が、大いに活用することが期待される。

